

「まちづくりに関する市民意識調査（18歳以上）」の結果（速報版）

I 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、市の施策への満足度やまちづくりへの意識を調査し、令和5年度～6年度に策定する各務原市総合計画に市民の意見を反映させることを目的とする。

(2) 調査の設計

調査対象地域	各務原市全域
調査対象	各務原市内在住の18歳以上の市民3,000人
抽出方法	住民基本台帳による無作為抽出
調査方法	配布：郵送、回収：郵送及びインターネット
調査時期	令和4年11月22日（火）～12月5日（月）

(3) 回収結果

配布数	3,000件
回収数	1,178件
回収率	39.3%

II 各務原市への愛着など

(1) 各務原市への愛着

「感じている」は62.8%であり、令和4年は平成30年に比べ0.9ポイント減少した。

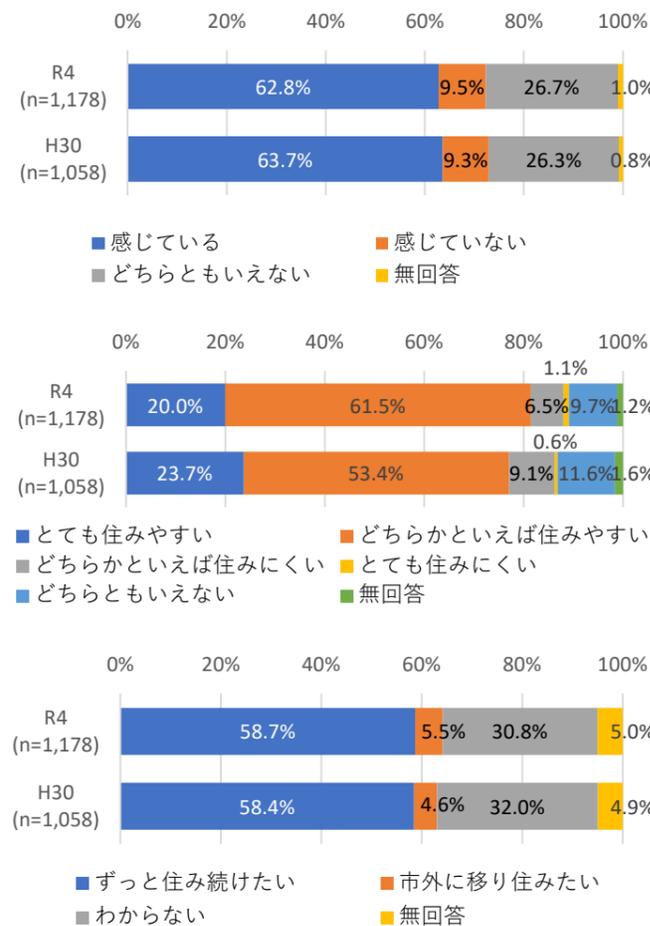
(2) 各務原市の住みやすさ

「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせると81.5%であり、令和4年は平成30年に比べて、4.4ポイント増加した。

「とても住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」を合わせると7.6%であり、令和4年は平成30年に比べて3.1ポイント減少した。

(3) 各務原市での定住意向

「ずっと住み続けたい」は58.7%であり、令和4年は平成30年とほぼ同じである。

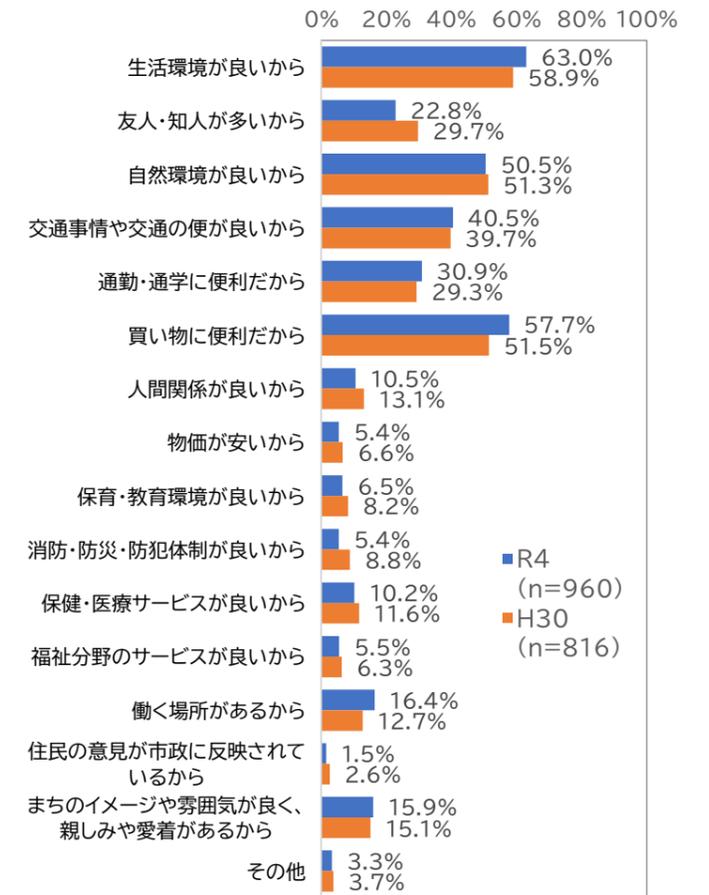


(4) 住みやすい理由

住みやすい理由は、「生活環境が良いから」が63%と一番多く、次いで「買い物に便利だから」が57.7%、「自然環境が良いから」が50.5%で上位となっている。

平成30年と比べると、「生活環境が良いから」「買い物に便利だから」が上昇した。

※「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と答えた方からの回答

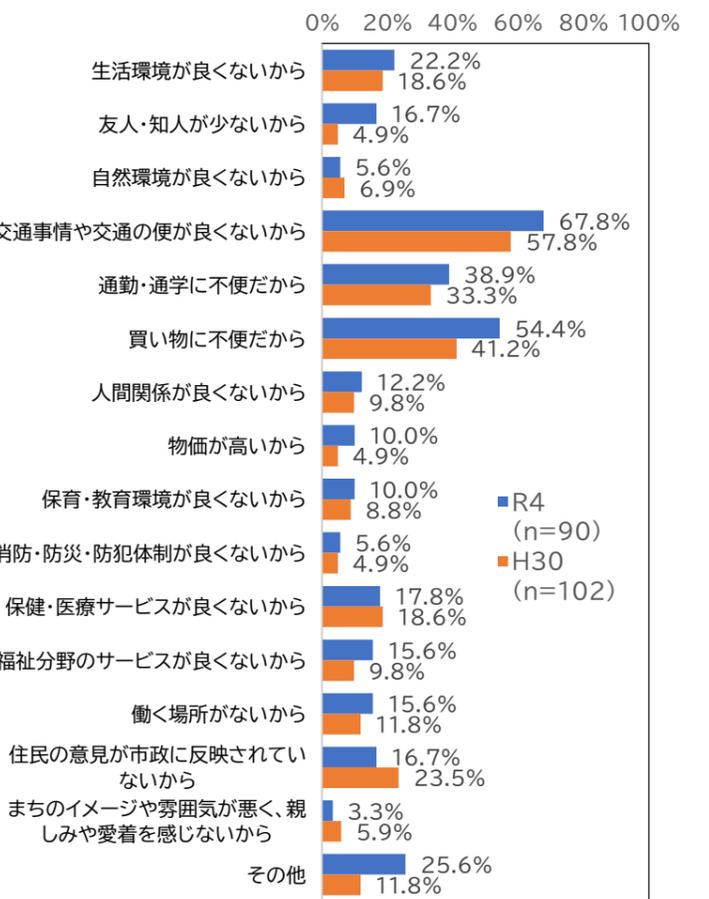


(5) 住みにくい理由

住みにくい理由は、「交通事情や交通の便が良くないから」が67.8%、「買い物に不便だから」が54.4%、「勤務先・通学に不便だから」が38.9%で上位となっている。

平成30年と比べると、「交通事情や交通の便が良くないから」「買い物に不便だから」「勤務先・通学に不便だから」がいずれも上昇した。

※「とても住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」と答えた方からの回答



Ⅲ 各務原市が取り組んでいる施策の分野についての重要度・満足度

(1) 分析の考え方

37項目について、満足度と重要度を右表のような配分で点数化し、その点数の合計値を、無回答を除いた各設問の回答総数で割り、満足度・重要度を得点化する。

さらに、各項目の満足度と重要度の得点の関係で分布図を作成し、ポートフォリオ分析を行う。

(2) 分析結果

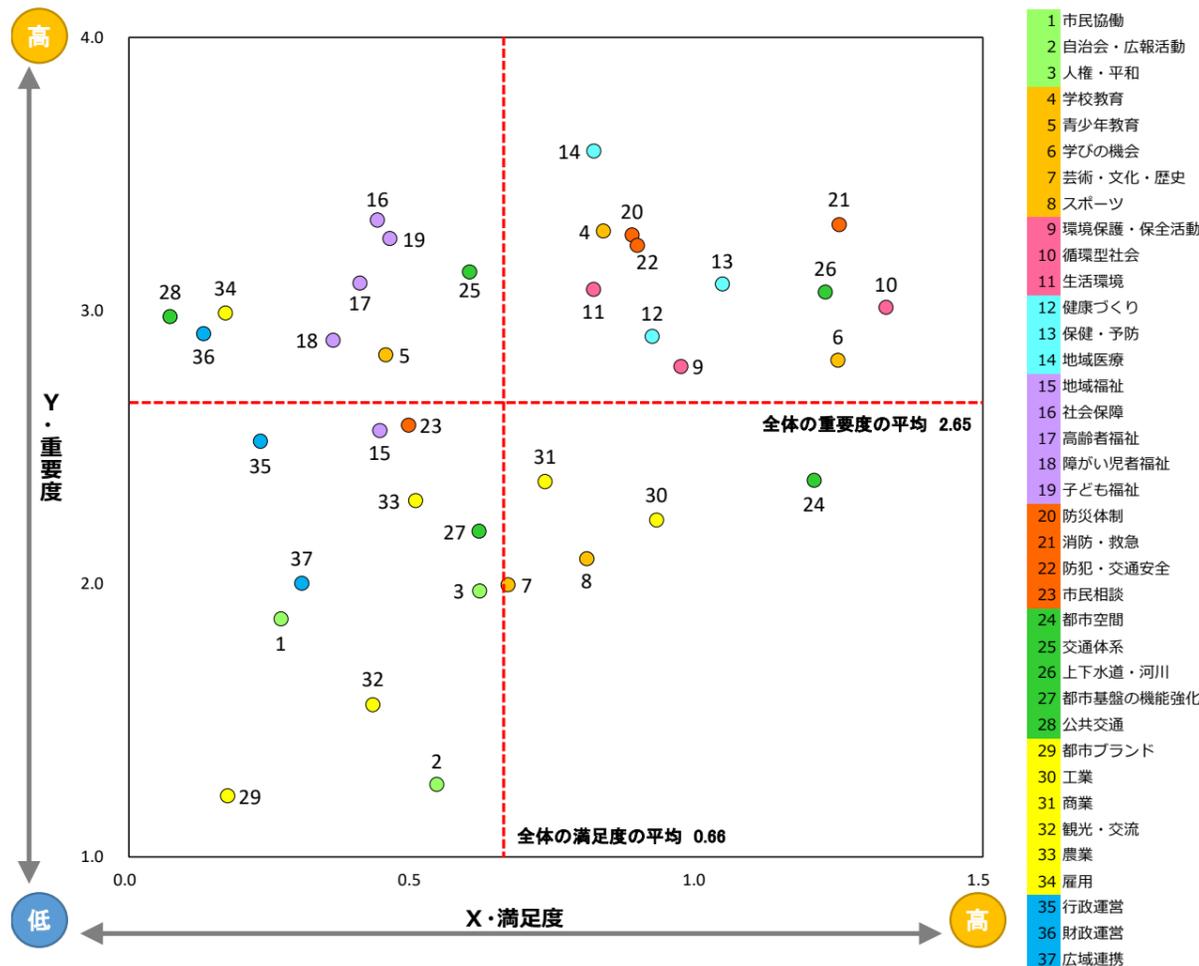
重要度が高いのに満足度が低い分野は、「16. 社会保障」、「28. 公共交通」、「34. 雇用」などとなっている。

また、重要度が高く満足度が高い分野は、「10. 循環型社会」、「21. 消防・救急」、「26. 上下水道・河川」などとなっている。

	満足度	得点化基準
①	満足	5点
②	どちらかといえば満足	3点
③	どちらかといえば不満	-3点
④	不満	-5点
⑤	どちらともいえない	0点
⑥	無回答	母数から除外

	重要度	得点化基準
①	重要	5点
②	どちらかといえば重要	3点
③	あまり重要でない	-3点
④	重要でない	-5点
⑤	どちらともいえない	0点
⑥	無回答	母数から除外

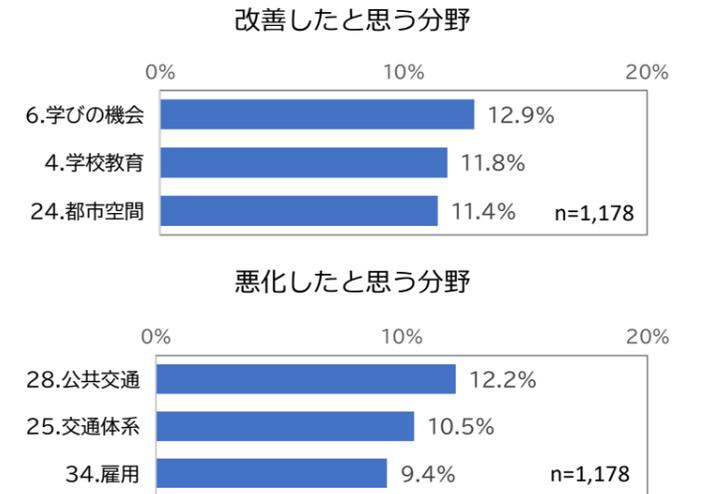
$$\text{得点} = \frac{[\text{①件数}] * 5 + [\text{②件数}] * 3 - [\text{③件数}] * 3 - [\text{④件数}] * 5}{[\text{件数合計}] - [\text{⑥件数}]}$$



Ⅳ 5年間で、特に改善したと思う分野・悪化したと思う分野

各務原市のまちづくりとして、ここ5年間で、特に改善した(=進展した)と思う分野は、「6. 学びの機会」が12.9%と最も高く、次いで「4. 学校教育」が11.8%、「24. 都市空間」が11.4%となっている。

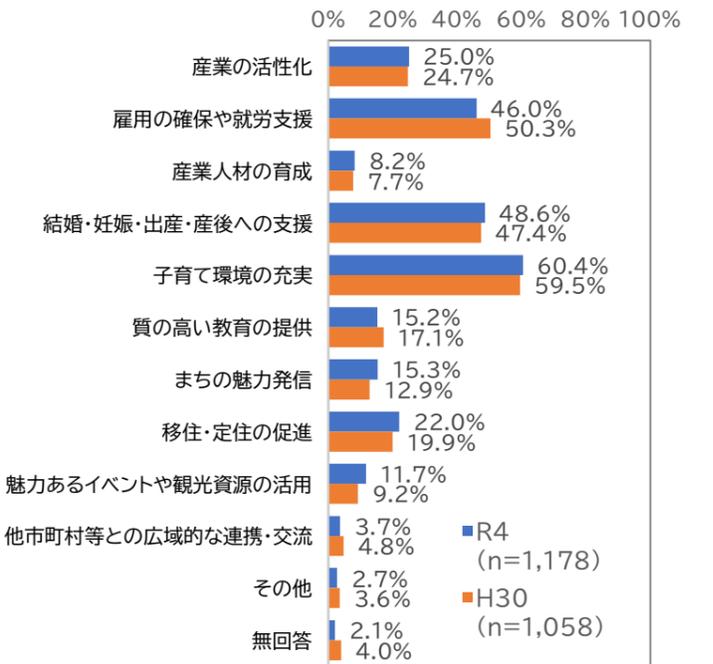
特に悪化した(=進んでいない)と思う分野は、「28. 公共交通」が12.2%と最も高く、次いで「25. 交通体系(幹線道路・生活道路の整備等)」が10.5%、「34. 雇用」が9.4%となっている。



Ⅴ 人口減少対策について

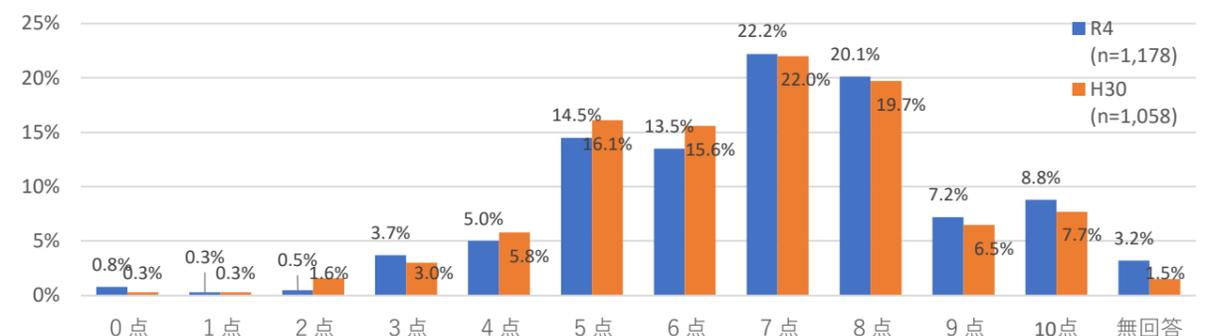
各務原市の人口減少対策として有効と思われる施策は、「子育て環境の充実」が60.4%と最も高く、次いで「結婚・妊娠・出産・産後への支援」が48.6%、「雇用の確保や就労支援」が46.0%となっている。

平成30年に比べ、「結婚・妊娠・出産・産後への支援」が「雇用の確保や就労支援」を上回った。



Ⅵ 幸せについて

幸福度について、「7点」が22.2%と最も高く、次いで「8点」が20.1%、「5点」が14.5%となっている。平均値は7.57で、平成30年の6.66より高い。



「まちづくりに関する意識調査（中高生）」の結果（速報版）

I 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、数年後に社会人として、また、まちづくりの担い手として活躍される中高生を対象に意見を伺い、令和5年度～6年度に策定する各務原市総合計画に市民の意見を反映させることを目的とする。

(2) 調査の設計

調査対象地域	各務原市全域
調査対象	各務原市に所在する8中学校3年生1クラス、各務原市に所在する3高等学校3年生、または2年生の内、市内在住者60人
調査方法	配布：依頼文直接、回収：インターネット
調査時期	令和4年11月22日（火）～12月13日（火）

(3) 回収結果

配布数	500件
回収数	422件
回収率	84.4%

II 各務原市への愛着など

(1) 各務原市への愛着

「とても好き」「どちらかといえば好き」を合わせると89.6%であり、平成30年に比べ8.9ポイント増加した。

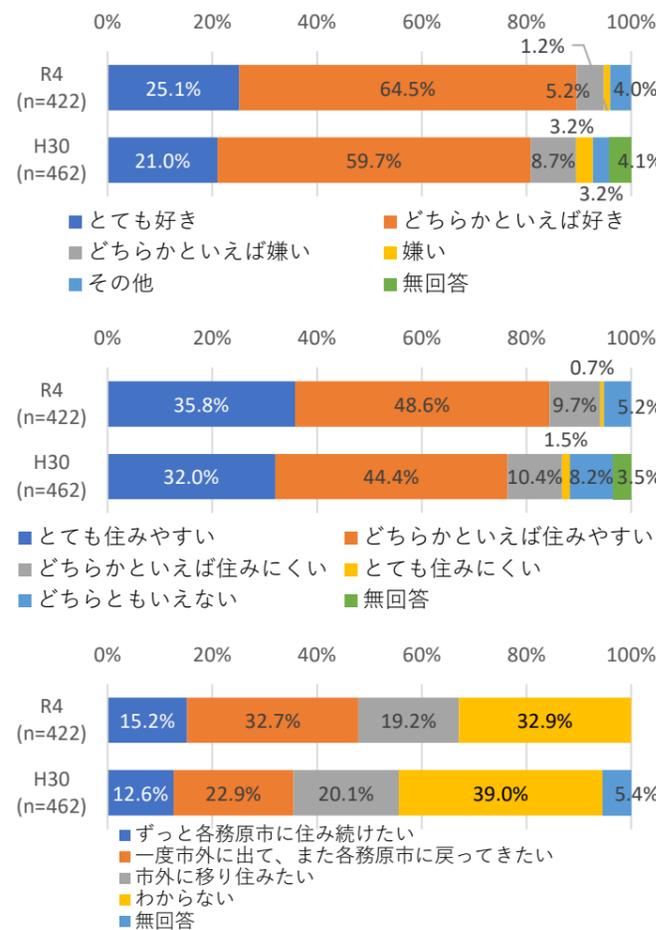
(2) 各務原市の住みやすさ

「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせると84.4%であり、平成30年に比べて、8ポイント増加した。

「とても住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」を合わせると10.4%であり、平成30年に比べて1.5ポイント減少した。

(3) 各務原市での定住意向

「ずっと住み続けたい」「一度市外に出て、また各務原市に戻ってきたい」を合わせると47.9%であり、平成30年に比べ12.4ポイント増加した。

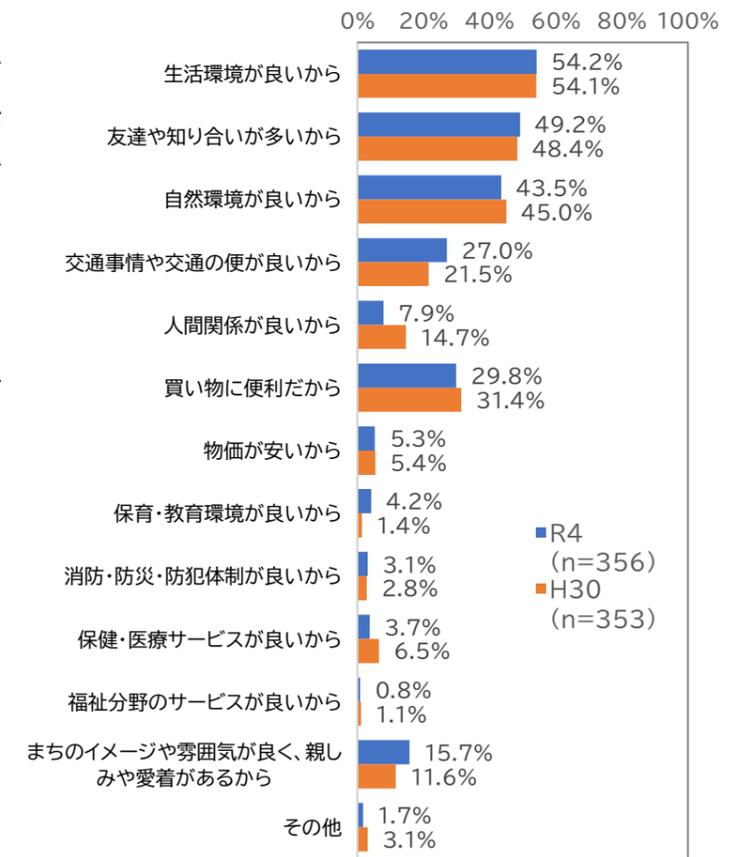


(4) 住みやすい理由

住みやすい理由は、「生活環境が良いから」が54.2%と一番多く、次いで「友達や知り合いが多いから」が49.2%、「自然環境が良いから」が43.5%で上位となっている。

平成30年と概ね同じ傾向となった。

※「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と答えた方からの回答

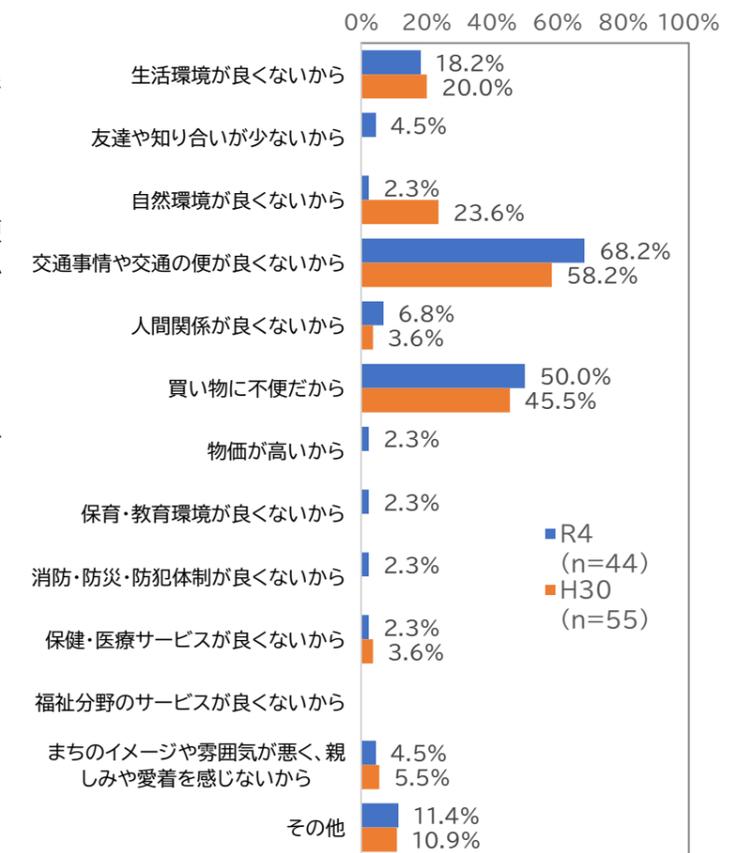


(5) 住みにくい理由

住みにくい理由は、「交通事情や交通の便が良くないから」が68.2%、「買い物に不便だから」が50%で上位となっている。

平成30年と比べると、「交通事情や交通の便が良くないから」「買い物に不便だから」がいずれも増えている。

※「とても住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」と答えた方からの回答

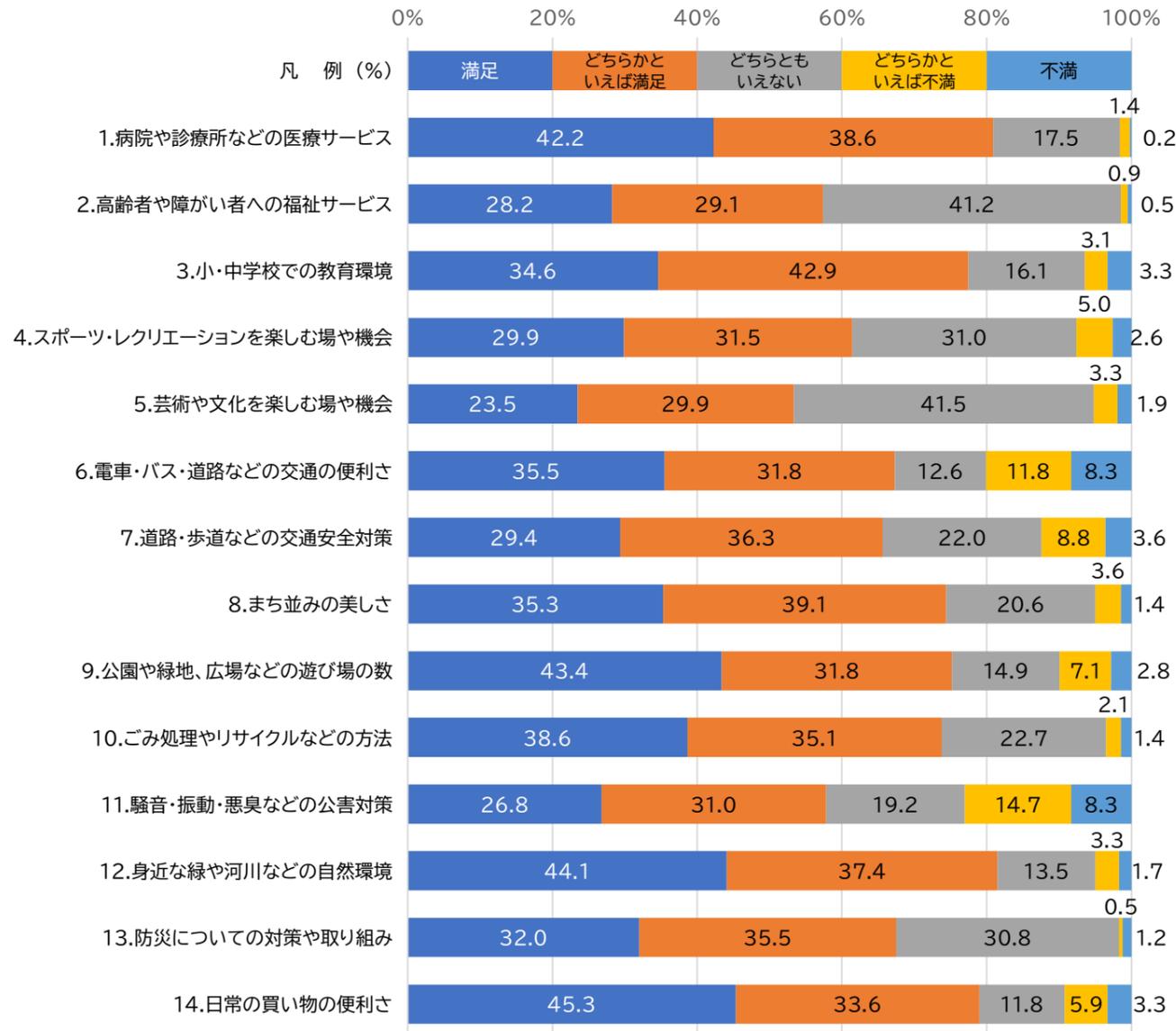


Ⅲ 日常生活における満足度について

(1) 生活環境の満足度

満足度について、「12.身近な緑や河川などの自然環境」で、「満足している」と「やや満足している」を合わせた『満足している』の割合が81.5%と最も高く、次いで「1.病院や診療所などの医療サービス」が80.8%、「14.日常の買い物の便利さ」が78.9%となっている。

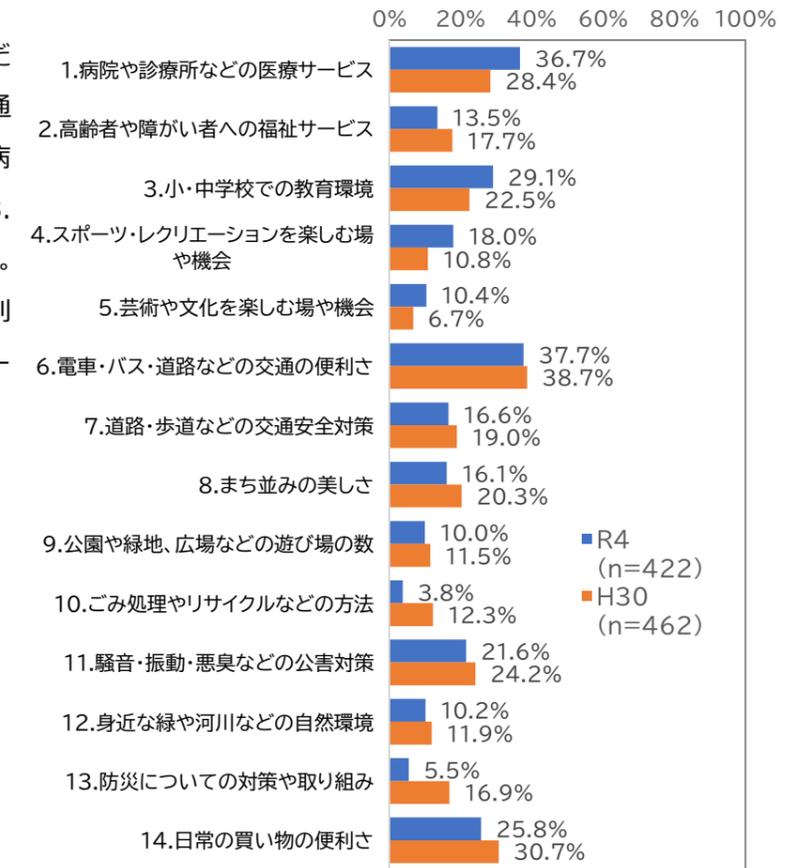
一方、「5.芸術や文化を楽しむ場や機会」が53.4%と最も低くなっている。



(2) 特に重要だと思う項目

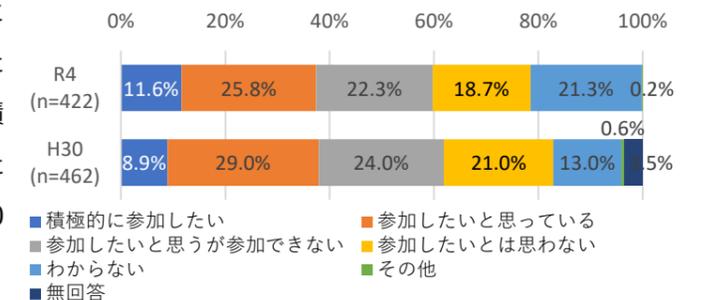
生活環境をよりよくするために特に重要だと思う項目は、「6.電車・バス・道路などの交通の便利さ」が37.7%と最も高く、次いで「1.病院や診療所などの医療サービス」が36.7%、「3.小・中学校の教育環境」が29.1%となっている。

平成30年に比べ、「14.日常の買い物の便利さ」が低下し、「1.病院や診療所などの医療サービス」「3.小・中学校での教育環境」が増えた。



Ⅳ まちづくりへの関心について

ボランティア活動等への参加意向は、「参加したいと思っている」が25.8%で最も高く、次いで「参加したいと思うが参加できない」が22.3%となっている。「積極的に参加したい」「できるだけ参加したい」「参加したいと思うが参加できない」の合計は59.7%で、平成30年の61.9%を下回った。



Ⅴ 幸せについて

幸福度について、「8点」が20.6%と最も高く、次いで「7点」が20.1%、「10点」が14.5%となっている。平均値は7.05で、平成30年の6.46より高い。

